



2023年11月号
2023. 11. 30
第69号
発行：わらびじゅく
笑楽日塾



笑楽日塾はSDGsを
応援します。

塾長あいさつ

荒井貞夫



インドネシア・感動の旅—1

「機械に使われる」

5月にコロナが普通の感染症だと多くの人が信じるようになった。そろそろ海外へ行ってもいいかと考えていた。

私は人生の目的は金持ちになる事ではなく、幸せになる事だと思う。自分が金持ちになれなかったから悔しさを込めてそう思うのではない。84歳になった今、思うのは、「俺の人生で一番価値あるのは良い思い出」と信じている。

少ない手持ちのお金は思い出づくりにこそ使うべきだ。それには旅が良い。好きな列車に乗って車窓から外をずーっと眺めている至福の時間を思い出す。

もう一つはゴルフがある。ゴルフと旅が結びつけば最高だ。
それで何処に行くか。やっぱり思い出の地・インドネシアへ行きたい。

日本航空に電話した、インドネシア大使館へ電話した。目的の相手にたどり着く迄に何回も受話器のキーを押す。そして待たされる。相手は自動音声ばかりで、肉声のぬくもりがない。待たされてやっと相手が出てくる。それまでの間、自分はイライラしている。

コンピューター化、AI技術が進むにつれ、人間同士が関わり合い、助け合う事がどんどん減っている気がする。だから笑楽日塾の集まりは存在価値が高まる。他人に用件や意思を伝えるのはスマホに文字を打ち込むばかりで、口をきかない。人間同士の分断が加速される中、ChatGPT等というものが進歩して良いのだろうか。それで社会は幸せに向かうのか。

「旅の準備」

そんなことをぶつぶつ言いながら、8月に旅の準備を始めた。何処へ行くか。自分の第2の人生が一杯詰まっているインドネシアへ行こう。

旅の日程づくり、誰に会って、何を伝えるか、会いたい人は今も元気か、お世話になった人たちはどうしておられるか、何処で何を見るか、思い出の地を巡りいっぱい良い思い出を作りたい。しかし、個人旅行の準備は簡単ではなかった。

まず、航空券の予約だ。フライトの選択から座席指定、支払いまで全てがインターネットで手続きだった。昔は電話一本で終わったのに。

10月23日成田空港出発、29日成田着。往復の航空券を予約してから、ジャカルタのホテルの手配、Jakartaから飛行機で一時間の中部ジャワの都市Solo迄のローカル便の予約、これらは知り合いの大商社の現地社長の秘書に頼んだ。ジャカルタの空港への出迎えの社用車も秘書が手配してくれた。ジャカルタのホテルは一泊@24,000円と高い。

10月に入って、インドネシアで会いたい人たちの顔を思い浮かべながらお土産を買い始めた。あれもこれもといっばいで、トランクの重量は24Kgと重くなってしまった。

ジャカルタの知人からVISAをインターネットで取得しておくように言ってきた。ところがこれがなかなか上手くいかなかった。ネットで手続きが終わるとQRコードが表示され、それを入国審査(イミグレーション)で見せれば良いんだということだった。しかし、スマホで上手く出来なかった。

私はジャカルタの空港で到着VISAを取得することにした。結果的にこれは正解だった。空港のVISA窓口で50万ルピア(6000円)払った。出発の2日前10月21日、日本航空からメールがきた。「成田でのチェックインは、オンラインでやって、それを印刷して空港へ持参する。空港では窓口でトランクを預けるだけ」。

「更に機械に使われる事があった」

ジャカルタの空港で税関検査がある。その申請書も紙ではなく事前にネットで手続きし、そのQRコードをスマホに入れて、ジャカルタ空港で税関の係官に見せるのだ。24日ジャカルタからSolo空港へ。Soloから車で、長いこと自分が暮らした町・Madiunへの移動はMadiunの知人へ車を頼んだ。約2時間乗る。これは有料で片道1万円。Madiunのホテル代は安い。一泊@4,000円。

「いよいよ出発」

10月23日11時成田発JAL725便で出発。現地ジャカルタへ16時30分着(日本時間18時30分)。日本とインドネシアの時差は2時間。7時間30分かかった。成田のJALのラウンジには新聞も雑誌も置いてなかった。コロナ対策とSDGsでやめたと。驚いたのは機内にも新聞も週刊誌もなかった事だ。

出国手続きでは、出国カードは不要で、パスポートを機械にかざして、カメラの前で顔認証をうけて終了。パスポートに出国のスタンプもない。窓口をお願いして、記念にスタンプを押して貰った。

出国のスタンプを押して貰った。
上は2019年の韓国入国スタンプ。コロナで2019年から2023年までパスポートを使っていなかった事が分かる



「インドネシア入国」



空港で VISA 取得 50 万ルピア払った。パスポートに大きな領収書が貼り付けられた。

次に入国審査の列に並んだ。直ぐ終わるかと思っていたが、スマホで電子申告の VISA の QR コードを読み取って入国となるが、ここで大問題が起きた。

入国審査に並んだ列がどんどん長くなっていく。どうやらスマホの QR コードを読み取る機械がシステムダウンしたらしい。空港の外では大商社の出迎えの運転手が待っている。私のスマホに WhatsApp を通じて運転手から連絡が入る。空港の入国窓口で約 2 時間かかってようやく入国できた。次に手荷物の税関申告。これは簡単に済んだ。

インドネシアの VISA 50 万ルピア (6 千円)

「再会」

出迎えの車に乗ってホテルへ。昔何回も泊まったなじみのホテル。トランクを開けて土産を取りだして、大商社の現地社長が待っているレストランへ。2005 年に彼がインドネシアから帰国してから 18 年ぶりの再会だった。2005 年には、私はまだインドネシアの Madiun に住んでいた。彼は帰国後暫くしてベトナム社長になった。その後本社の役員に昇進し、3 年前にジャカルタへ来てインドネシア社長になっていた。レストランへ着いたのは 23 日日本時間夜 10 時だった。明日は現地時間 6 時半にジャカルタ空港へ行く。そして多くの思い出が残る 9 年暮らした町 Madiun へ。

機械に使われながらの旅の初日が無事に終わった。



笑楽日塾11月 塾会報告

期 日 2023年11月9日 17時30分～19時30分

会 場 スポーツクラブNAS蕨 5階ロイヤルルーム

出席者 菊地、内田、高木、先崎、吉田、新井齊、星、新井(邦)、南、荒井 10名

欠席者 八木、荒川、清藤、長谷川

8月10日以来3ヶ月ぶりとなる顔の見える塾会となりました。
会場はスポーツクラブNAS蕨5階のロイヤルルーム、休館日に総支配人・森武大輔氏のご厚意により気軽に談笑する事が出来ました。

吉田さん・先崎さん・高木さん、南さんにお越し、16時45分にNASへ集合し、マルエツへ食事、ビール・日本酒・赤ワイン・白ワイン、おつまみを買いだし。
南さんと内田さんから美味しいワインの差し入れがありました。



菊地さんが1年ぶりに出席され、2022年8月に掲載された東京大空襲の実体験を語られた新聞記事をみんなに配っておられました。菊地さんへは笑楽日塾便り11月号の「シニアの風」への投稿原稿をお願いしました。

荒井塾長からの挨拶:

これまで笑楽日塾は塾生の皆さんが体験された仕事や各種の地域貢献ボランティア活動等々について順番を決めて書いたり語ったりして五年間をやってきました。6年目は5月からコロナがいつ自分の身に降りかかるのかその心配や、恐れていた日々への人々の認識が変わってきて、普通の日常に戻ってきた感じがします。笑楽日塾も少し変化しても良いかなと考えています。

もっと気楽に、語り合えればいい。シニアの心地よい居場所になれば良い。

記念誌発行も6号の準備に入りますが、塾生へノルマを設けず気楽にやりたい。

今夜は8月以来の3ヶ月ぶりの対面となりました。皆様のご健勝と吉田さんが大好きなタイガースの優勝を祝して乾杯したいと存じます。

【塾生の皆さんが最近遭遇した話題を語りました】

世間話を始めいろいろな話題が語られました。意外にも病気とか健康とか体の事が話題に出なかったのは、各自がシニアとして充実した日々を過ごし、いろいろな所で何かしら関わりを持っていて、そこから生み出される豊富な話題を持っているからと感じました。

吉田さんから:

38年前掛布、バース、岡田の大活躍でタイガースが優勝したときはクエートで仕事していた。優勝の感激の瞬間を見られなかった。日本から送ってくれたビデオを何回も観た。今回は第7戦までもつれ込んだ激戦を毎回楽しんだ。最後の優勝の瞬間は感激し泣いた。阪神を応援してきて良かった。

新井齊さんから:

蕨市がマンション住民への関心を高めてきている。マンションの諸問題に関して「マンションアドバイザー」としてマンションへ出向き講演している。派遣費は蕨市が負担。市内7つの公民館の耐震診断、設備診断を全部引き受けることになった。

高木さんから:

町会の青年部で活動している。お祭りを手伝ったり、包丁や鎌を研いだりして喜ばれている。キッズゴルフ支援で関西へ行った。子供たちの面倒を見て、楽しかった。

南さんから:

あちこち小さな旅を楽しんでいる。今年はかなり遅れているが、これから紅葉の季節でお出かけしたい。

先崎さんから:

公民館で活動している。生涯学習フェスティバルでは工作教室を開いて感謝された。最近感じるのは、蕨が変化していない、進化していない。何かが欠けている気がする。

内田さんから:

先月マンションの通常総会。新しい役員を決めようとしたが、なり手が少なかった。高齢化したマンションの共通の悩みだ。一方で、3~4年後には3回目の大規模修繕を予定しているので、経験者が大事だ。これまで理事長をやってきたが、これからも管理組合の副理事長として手伝っていく積もり。

新井邦夫さんから:

高齢化しているマンションと同じで、町会の活動で苦労している。土橋四つの町会が持ち回りで当番町会を担当している。今年の盆踊りはうちの町会だった。4年前の盆踊りをやろうとしても詳しく仕切れる人がいないので、結局俺が担当する事になった。幸い天気にも恵まれ大勢が来場し、踊って大成功だった。しかし、いつまでやっていけるかそれが悩みだ。

星さんから:

戸田のマンションの仕事が終わった。もう後期高齢者だから仕事はやらないことにしていたが、近所の蕨駅に近い新築マンション管理者の仕事を頼まれそう。自宅からも近いのでやっても良いかと考えている。

菊地さんから:

いろいろな事を頼まれて忙しい毎日を過ごしている。福島へ新型発電所の視察にも行った。きょうは東京大空襲の新聞記事を持ってきた。

荒井塾長から:

藤井聡太、大谷翔平の大活躍、タイガースの優勝など感動するニュースを見ながら、元気を貰っている。一方で、新聞テレビを観ながら不愉快な思いをしている。それは岸田さんが頼りないからだ。日本がダメなのは政治家が貧弱だからだ。そのトップがテレビで語ることがビリビリと心に響いてこない。

例えば、

11月3日の各紙に、1人4万円の定額減税や住民税非課税世帯への7万円給付など17兆円余りの経済対策が発表された。これで賃金も上がれば、低所得者の生活も良くなると大いに期待した。よくよく考えて見ると岸田政権が国民に還元するとしている税の自然増収は、財務省が試算した税収見積りからの上振れに過ぎず、巨額の財政赤字を出している今は、見方が甘すぎるのではないかと思っていた。過去2年分の自然増収は本当に残っているのか疑問に思っていた。

11月8日鈴木財務大臣は「税収で増えた分は、政策経費や国債の償還などで既に使っている。減税をするなら国債を発行しなければならない」と国会で述べ、これから所得減税の減収分は借金(国債)で埋め合わせるしかないと言ったのだ。

減税の原資がない事を岸田さんは説明していなかった。結局、国債分は将来を担う子ども達が負担する事になる。

自分は何もしないで国債を勝手に発行して減税しますと言うのは欺瞞ではないか。

目先の選挙ではなく、未来世代と向き合う政策に切り替えよ！と言いたい。

目を蕨市に転じれば不満は益々大きくなるばかりだ。
3日に宿場祭り、夏には機まつりがあった。観光事業としてはそれでいいが、何も残っていない。祭をやって町の賑わい創出につながって居ない。駅前通りは少しも活性化していない。20年前よりも落ち込んで居る。嘆かわしい限りだ、蕨市の行政は何をやってるんだ。前にも言ったが、蕨が他市より遅れている問題は他にも沢山ある。その一つが蕨駅東口の再開発だ。頼高市長は20年間ほったらかしだ。塚越方面から蕨駅へバスで来る人たちは500mも歩いて駅へたどり着く。

本日の会計報告

買い物(食事分など)3,218円+飲み物・おつまみなど9,502円=12,720円



次回は12月14日。オンラインまたは会食かは未定。



「シニアの風」

（順番制で行います。今回、菊地さんの当番ですが投稿が月末までありませんでしたので無しで行きます。次回12月は先崎さんですので準備の程、宜しくお願い致します。）